

コロナ禍における職能団体の人材育成の取り組み ～配信研修の実施から研修のあり方を再考する～

(一社) 静岡県精神保健福祉士協会 望月信吾
(医療法人社団リラ溝口病院)

要旨

静岡県精神保健福祉士協会（以下、当協会）では、新型コロナウイルス感染症が拡大し始めた 2019 年から従来参集で行っていた研修を中止し、新たな研修方法を模索し配信型の研修を実施するに至った。

本発表では、配信型の研修の実施による効果、及びそれを通して職能団体が実施する今後の研修のあり方についての気づきを報告する。

1 取り組みの概要

私たち専門職は、自己の専門性を維持、向上させていくことは責務である。そして、職能団体は、そのための機会を提供することが求められる。

これまで当協会では、年 3 回の県全体を対象とする研修を行ってきた。しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大により、従来の参集型の研修実施が困難になったため、配信型の研修を実施することとした。

2 当協会の人材育成の変遷

県協会では協会設立以来、専門職としての質を担保するための研修活動に重きを置き、資質ならびに技術の向上、会員相互の関係作りの場として様々な研修を行ってきた。

1992 年から研修体系を年間計画で作成し、2008 年からは研修委員会を組織し、研修の企画運営を行った。それにより、より効果的な研修実施及び協会運営にかかわる人材創出へとつなげた。しかし、研修参加率の低下や委員の担い手不足等により、2018 年度から研修体系と体制を再検討していた。その矢先の 2020 年 2 月、コロナ禍により計画していた冬季研修の中止を余儀なくされた。

3 新たな研修の検討、実施

2020 年度より協会内各ワーキング(以下、WG)で研修テーマを設定し、研修動画の配信研修を開始した。初年度は計 11 本の動画を提供できた。2021 年度は、初任者向けの動画も作成し、基本的知識の提供と同時に発表者の思いの中に専門職としての価値を入れ、現在 4 本の動画がアップされている。さらに講師は中堅者の会員を選定し、協会活動の参画につなげた。

4 動画作成から見えてきたこと

WG 内で検討された内容を、パワーポイントで説明文を入れて作成し、研修プロジェクト（以下、PJ）で共有する。PJ において、職能団体として押さえないことが再度検討され、最終的に WG 内で再修正され研修動画が完成する。この過程はスーパービジョンの要素を持つものであり、作成自体がこれにかかわる者たちの人材育成の場にもなっている。また、それは協会活動への参画者を増やす裾野を広げる取り組みにもつながり、結果的に組織強化にもつながった。

5 動画研修の効果と見えてきたもの

研修動画はブロック研修や職場内の勉強会でも活用され、動画提供者とリモートで結び内容をより深めようとする取り組みも見られた。また参集型研修では参加しない（できない）会員に対しても研修を提供する機会につながっている。

一方、動画は自分のペースで気軽に見ることができるが、仲間に直接会って話せないというデメリットもある。昨年度から入会者が激減していることと退会者が増加していることも、従来の「研修」というツールがネットワークを作っていくために大きな効果をもたらしていることもわかった。

6 まとめ

研修の場は、仲間とのコミュニケーションの場であり、日頃の実践を分かち合い、振り返り、力づけられ、明日への力になっていく場でもある。この効果の大切さをコロナ禍によって改めて気付かされた。職能団体の役割は、専門職としての気づきを喚起する場であり、コロナ禍だからできないのではなく、できることを探求して見出していきたい。